

診療所だより

牛の長期在胎Ⅱ

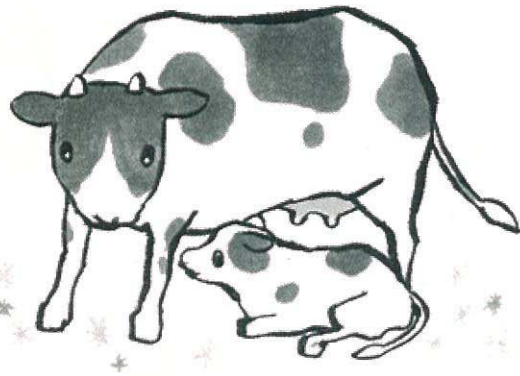


最近「分娩予定日を1週間過ぎても子牛が生まれない」とか「10日過ぎるが、子牛が生まれない」という話をよく耳にします。

これは、品種改良により牛の副腎皮質の機能が低下した為だと言われています。

胎児は産まれる用意ができると、副腎皮質から副腎皮質ホルモンを大量に分泌します。それが胎盤を介し母体に流れ、分娩が開始されます。

つまり副腎皮質ホルモンは分娩開始のスイッチみたいなものです。スイッチの入り方が遅いと、どうしても分娩の予定日を過ぎることになります。



分娩予定日を2週間過ぎると、胎児はかなり大きくなると思われがちですが、生き物

の体は良くできていて、分娩予定日を大幅に過ぎても、極端に大きくなる胎児はほとんどいません。以前、分娩予定日から23日遅れたお産に行きましたが、33kgほどでした。標準は、雄が約30kgで雌は約28kg程度なので特別大きくはありませんでした。

育成牛で明らかに難産になると思われるもの、分娩予定日を15日以上過ぎた牛以外は分娩誘発剤の使用はできません。

『小さく産んで、大きく育てる』というのは人間に当てはまることで、子牛が特に大きな病気をしなければ、セリ市での体重は、その子牛の生時体重に比例します。

診療所からのお願い

○往診依頼は9時まで

診療の受付は午前9時までとなっております。そして病状道順を考慮しながら、最も無駄のない往診の順番を決めます。日頃から牛の様子を良く観察し、診療が必要と思われる時は**各家畜診療所に午前9時まで**に電話してください。(急患の場合を除く)

★延岡家畜診療所

☎0982-41-0203

★日向家畜診療所

☎0982-53-5515

★西臼杵家畜診療所

☎0982-72-4105

◎診療を受けた時は、必ず加入証を提示して下さい。

◎牛を買ったり、売ったりしたら組合に連絡してください。